

米国バンクローンファンド（為替ヘッジあり）2014-05

設定日：2014年5月30日

償還日：2017年5月15日

決算日：2月、5月、8月、11月の各15日
(休業日の場合は翌営業日)

収益分配：決算日毎

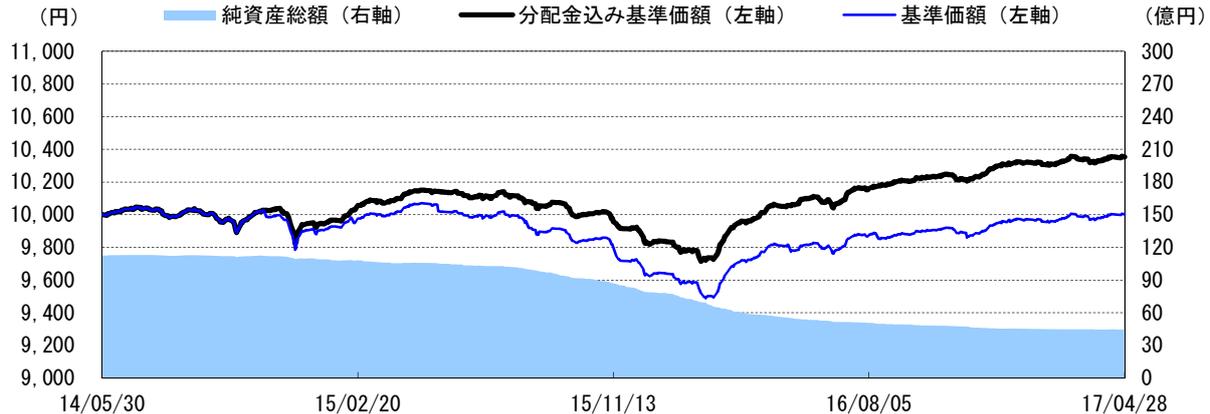
基準価額：10,003円

純資産総額：44.80億円

運用実績

※当レポートでは基準価額および分配金を1万円当たりで表示しています。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、
 それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束
 するものではありません。

＜基準価額の推移＞



※分配金込み基準価額の推移は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。
 ※基準価額は、信託報酬（年率1.70802%（税抜1.5815%）程度）控除後の値です。

＜基準価額の騰落率＞

1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
0.23%	0.34%	1.06%	2.87%	-	3.54%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

＜資産構成比率＞

PIMCO バミューダ・バンク・ローン・ファンド A-J (JPY)	97.1%
日本短期債券マスターファンド（適格機関投資家向け）	1.9%

※マザーファンドの状況です。
 ※対純資産総額の比率です。

＜分配金実績（税引前）＞

設定来合計	直近12期計	14・8・15	14・11・17	15・2・16	15・5・15	15・8・17
340円	340円	0円	40円	40円	40円	40円
40円	40円	40円	40円	20円	0円	

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。
 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

＜基準価額騰落の要因分解（月次ベース）＞

前月末基準価額	9,980円
当月お支払いした分配金	0円
要	
インカムゲイン	42円
キャピタルゲイン	-7円
因	
その他	-12円
当月末基準価額	10,003円

※要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。

■当資料は、日興アセットマネジメントが当ファンドの運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めるために作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

PIMCO バミューダ・バンク・ローン・ファンド (M) のポートフォリオの内容

※ピムコジャパンリミテッドより提供された情報です。
※当外国投資信託における数値です。

<資産構成比>

バンクローン	88.4%
債券	9.4%
現金・その他	2.2%

※対純資産総額の比率です。

<格付別構成比>

格付	比率
B B B以上	13.0%
B B	47.7%
B	36.6%
C C C以下	2.7%
無格付	0.0%
平均格付	BB-

※組入れバンクローンおよび債券の時価総額に対する比率です。

※平均格付とは、データ基準日時点で当外国投資信託が保有している有価証券などに係る信用格付を加重平均したものであり、当外国投資信託に係る信用格付ではありません。

<国別構成比>

国名	比率
米国	86.6%
カナダ	3.1%
ルクセンブルグ	2.4%
英国	2.1%
オランダ	1.7%
アイルランド	1.6%
スペイン	1.0%
その他	1.6%

※組入れバンクローンおよび債券の時価総額に対する比率です。

<通貨別構成比 (為替ヘッジ前)>

通貨	比率
米ドル	100.0%
英ポンド	0.0%

※組入れバンクローンおよび債券の時価総額に対する比率です。

<業種別構成比>

業種	比率
メディア	8.8%
通信	6.7%
小売	6.5%
ソフトウェア	6.1%
医薬	6.0%
商業サービス	5.9%
ヘルスケア (サービス)	5.1%
その他	54.9%

※組入れバンクローンおよび債券の時価総額に対する比率です。

<ご参考情報>

デュレーション	0.41年
最終利回り	5.08%

※組入れバンクローンおよび債券部分についての数値です。

※最終利回りは信託報酬、手数料および税金などを考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものでも、将来得られる期待利回りを示すものでもありません。

※最終利回りは、バンクローンおよび債券を満期まで保有した場合の利回りです。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。

■当資料は、日興アセットマネジメントが当ファンドの運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

<バンクローン上位10銘柄> (組入銘柄数：326銘柄)

	銘柄名	業種	比率
1	RESTAURANT BRANDS TL B	小売	2.0%
2	UNIVISION COMMUNICATIONS TL C5	メディア	1.6%
3	DELL INTERNATIONAL LLC TL	消費財	1.5%
4	CHANGE HEALTHCARE HOLDINGS TL B	医薬	1.4%
5	AVOLON HOLDINGS LTD TL B2	リース	1.3%
6	ENERGY FUTURE/EFIH DIP TL	公益事業（電気）	1.1%
7	SPRINT COMMUNICATIONS TL B	通信	1.1%
8	PRIME SECURITY SERVICES BOR TL	商業サービス	1.0%
9	GRIFOLS WORLDWIDE OPERAT TL B	医薬	1.0%
10	GARDNER DENVER INC TL	機械（総合）	1.0%

※組入れバンクローンおよび債券の時価総額に対する比率です。
 ※個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。
 ※上記銘柄については将来の組み入れを保証するものではありません。

<債券上位10銘柄> (組入銘柄数：150銘柄)

	銘柄名	業種	比率
1	BLACKSTONE CQP SEC 144A	各種金融	0.2%
2	SPRINT CORP SR UNSEC	通信	0.1%
3	CLEAR CHANNEL WORLDWIDE SR UNSEC	メディア	0.1%
4	ARDAGH PKG FIN/HLDGS USA SEC 144A	包装	0.1%
5	T-MOBILE USA INC SR UNSEC	通信	0.1%
6	DELL INTL LLC / EMC 144A	コンピューター	0.1%
7	ALTICE FINANCING SA SR SEC 144A	メディア	0.1%
8	T-MOBILE USA INC SR UNSEC	通信	0.1%
9	COTT HOLDINGS INC SR UNSEC 144A	飲料	0.1%
10	ADT CORP GLBL SR UNSEC	商業サービス	0.1%

※組入れバンクローンおよび債券の時価総額に対する比率です。
 ※個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。
 ※上記銘柄については将来の組み入れを保証するものではありません。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。

■当資料は、日興アセットマネジメントが当ファンドの運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めるために作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

【当月の市場動向】

当月の米国バンクローン市場は、仏大統領選や北朝鮮のミサイル発射を巡る地政学リスクの高まりや、下旬に米ガソリン在庫の増加を受けて原油相場が軟化したことがマイナス要因となりました。しかし、発表された米企業の決算内容が概ね良好であったことや、トランプ大統領が金融規制改革法を撤廃する方針を改めて示したことがプラス要因となり、月を通じてみると堅調な結果となりました。セクター別では、エネルギーや運輸などが他を上回るパフォーマンスとなりました。一方、金属・鉱業、包装などは相対的に冴えない結果となりました。

【パフォーマンスとその要因】

当月のパフォーマンスは、バンクローン市場が上昇したことから、プラスとなりました。

当月のポートフォリオにおいては、ヘルスケアへの積極姿勢、金属・鉱業への消極姿勢がプラスに寄与した一方、自動車への積極姿勢や小売りへの消極姿勢がマイナスに寄与しました。

【今後の運用方針】

米国では、賃金と住宅価格の上昇が続く環境下、米国経済の約7割を占める個人消費が牽引役となり、自律的な経済成長が進むことが想定されます。また、トランプ政権下で想定される大幅な減税やインフラ投資などの景気刺激策は、中長期的に米国経済を展望する上でサポート材料になると考えられます。一方で、トランプ大統領の政権運営の舵取りに対する不確実性が残るため、市場の変動性が高まる可能性がある点には注意を要します。

バンクローンやハイイールド債券の発行体（貸付先）である米国企業の財務状況はエネルギー等の資源関連セクターを除いて概ね健全な状態にあります。世界的に低金利環境が続く中で、ファンダメンタルズが健全で、安定的なインカムの獲得が期待できるクレジット資産への投資妙味は高いと考えられます。多くのバンクローンには担保が設定されデフォルト時の弁済順位が高く、デフォルト時の損失額が通常の債券と比較して小さいと考えられます。また、バンクローンは相対的に高い利回り水準にありながら、通常の債券と比較して金利変動による影響を受け難いという特性があります。そのため、価格変動幅を抑えながら相対的に高いインカムを獲得したいと考える投資家からの需要が見込まれます。

こうした環境下、長期的なファンダメンタルズに着目した慎重な銘柄選択および損失の軽減が最も重要であると考えており、引き続き、強固な資本構成を有し、高い参入障壁や堅実な成長性によって事業基盤が安定している比較的信用力の高い銘柄を中心に投資を行う方針です。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。

■当資料は、日興アセットマネジメントが当ファンドの運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めるために作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。